

安中市指定史跡  
義士石像・義士供養塔

今からおおよそ三百年以上前の元禄十五年(一七〇二)十二月十四日(太陽暦に直すと一七〇三年一月三十日)、江戸本所松坂町(現在の東京都墨田区両国の松坂町公園一帯)にあった高家吉良上野介邸に赤穂四十七士が討ち入りました。いわゆる赤穂事件です。事の発端は、前年の三月十四日(太陽暦に直すと一七〇一年四月二十一日)、勅使饗応役赤穂藩主浅野内匠頭長矩が高家肝煎吉良上野介義典に江戸城松の廊下で刃傷に及び、内匠頭は即日切腹、赤穂藩は取りつぶしという処分になりました。吉良上野介の首を泉岳寺の内匠頭の墓に捧げると、幕府は赤穂義士を細川家他家にお預けの身としましたが、元禄十六年二月、全員切腹となりました。

令和4年度  
文化財愛護ポスター



優秀賞

安中小学校(6年)  
堀口 敬叶さん

して仕えました。その後藩主が松の廊下事件を起こして赤穂藩は取り潰しとなりましたが、元助はそのまま下僕として仕えていました。その後、討ち入りのため高房は元助を死なせまいと暇を出しました。討ち入り後、元助は義士の四十九日の法要を済ませて、故郷の秋間に戻り、約二十年の歳月をかけて、四十七義士や浅野内匠頭夫妻の石像を岩戸山の中腹に造り、久保の観音堂に供養塔を建立しました。その後、秋間を去り、上総国朝夷郡和田村(現在の千葉県南房総市和田町花園)の長香寺に足を止め、享保十七年(一七三二)九月に岩穴で入定を遂げ、長香寺に供養塔が建っています。



もとすけいせきざしせきどう  
元助遺跡義士石像

2月8日(水)～2月10日(金)まで展示  
片付けのためふるさと学習館は臨時休館です。

おくれぎきはるなのうめがか 後開榛名梅香 連載 最終回 作：三遊亭円朝(1839～1900) 編集：学習の森 ※学習の森で紹介のために編集したもので、原文とは異なります

主従の出会い(8)

兄弟子の香散見から息子を託された恒川は草三郎を連れて江戸屋敷へ戻った。すると間もなくお国詰めとなり、その折りに父の恒川半六が身罷ったので、恒川は家督を継ぎ当主となった。しかしこの父親が負債を残したために暮らしは貧しく、藤蔵を含む古い奉公人たちには暇を出し、恒川と草三郎の主従二人きりの暮らしが始まった。十石二人扶持でそのうえ借金もあるとなつては、武士とはいえ内職をせねば生計が成り立たない。そのような生活であるが、草三郎は父に言われたとおり恒川に尽くし、恒川は内職のひまを見つけては草三郎に剣術を教えてやった。三年もすると、草三郎は柳生流の免許を取るほどの腕前になった。やがて香散見が病死したと知らせが届き、草三郎の身よりはもはや恒川のみとなった。草三郎は恒川にますます忠義を尽くし、そうなる恒川も草三郎が可愛くなり、実の親子のように目をかけてやるのであった。

——こうして恒川半三郎と草三郎との間に固く主従の絆が結ばれたのでございます。この後に恒川は故あって藩の上役を斬り、草三郎はその罪を引き受けて投獄されます。恒川は逃亡生活を余儀なくされ、草三郎は牢の中で出会った妙義無宿の白蔵という泥棒にもちかけられて脱獄、その末に上州安中下秋間村に落ち着いてまんじゅう売りを始めるのでございますが、お武家様の着物を汚したとしてさいなまれ、愛しい妻の首を落とさねばならぬなどさまざま苦難が降りかかります。

ご紹介はここまでいたしますが、お話はまだ続きます。一朝一夕では語り尽くせぬ長物語でございますから、梅花のほころぶ今この季節にお楽しみいただきますのも一興と存じます。それではそろそろお後がよろしいように。(おわり)

問合せ▶安中市学習の森 ふるさと学習館 午前9時～午後5時(入館・ミュージアムショップは午後4時30分まで)  
安中市上間仁田951 ☎027-382-7622(ふるさと学習館) ☎027-388-0038(生涯学習施設予約)  
【2月の休館日】2/7(火)、2/14(火)、2/15(水)、2/21(火)、2/24(金)、2/28(火)